

# 相鉄 車内広告「トレインビジョン(車内映像広告)」

## 平成24年度第三弾 10月～12月

### ■媒体概要■

掲出車両	掲出編成数	運行区間	1両あたり画面数	画面サイズ	放映期間	放映時間	放映料金 (作業費込み/税別)
11000系車両	10両×4編成 (40両)	《相鉄本線・いずみ野線》 下図参照	8面 (合計320面)	17インチ 液晶モニター 16:9 (無音声)	10/1～12/31 <b>3カ月間</b>	1ロール 6分程度予定 15秒間	¥300,000 (15秒間素材)



広告放映枠



●11000系車

1ヶ月間放映、2ヶ月間放映も承ります。

1ヶ月間(15秒間) ¥100,000-

2ヶ月間(15秒間) ¥200,000-

素材納品日は掲出期間にかかわらず9/12(水)となります。

その時点で、日付の指定もできます。(素材納品が可能であれば途中差換えも出来ます。)

※上記以外の期間をご希望の場合、別途ご相談承ります。

### 【11000系運行データ】

#### 相鉄線基本データ

1日平均利用者数	平均運行本数(往復) /1編成(11000系)	運行時間 (横浜～海老名間)
630,000人	14往復	約32分

#### 1日あたり

OA回数/片道	1日平均OA回数	1日あたりの接触人数
8回	224回	15,750人

※1ロールあたり、16本想定(1ロール6分)

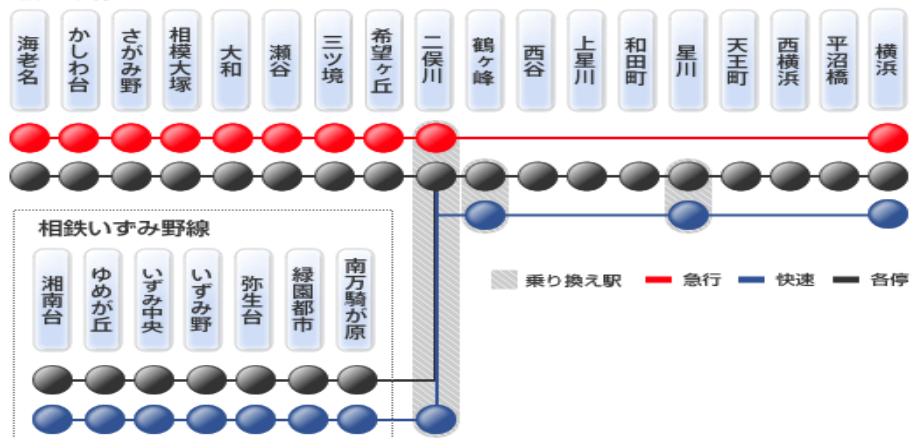
※1本あたり、15秒を想定

※1日、38編成運行

#### 3ヶ月間

総OA回数	接触人数
20,160回	1,417,500人

#### 相鉄本線



## 【実施に関する注意事項】

※放映素材の納品は、放映用ベータカムまたはHDカム1本及び審査用VHS1本またはPCで再生可能なデータをご用意下さい。

放映内容について事前審査がありますのでデータは早めにご用意下さい。

尚、放送素材ベータカム(HDカム)は**9/12(水)**までに入稿をお願い致します。

(入稿フォーマットについては別紙参照して下さい。)

※別紙注意事項を必ずご覧になってください。

※放映は1ロール6分程度を繰り返し放映します。

(広告枠以外に相鉄業務放送の放映もあります。)

※番組の放映パターンは媒体社側で決定します。

※1期中の内容変更はできません。(素材納品締切日までに素材を納品いただければ途中差換えは可能です。)

※音声はできませんのでテロップなどのメッセージが伝わる内容で製作下さい。

※放映素材納入後の作業料金は放映料金に含まれます。

※消費税は別途かかります。

## ■注意事項

掲出期間は3ヶ月の放映期間とさせていただきます。

次回掲出期間は1/1～3/31(3ヶ月間)、価格 ¥300,000－(税別)予定となります。

料金は15秒料金です。30秒CMであれば2倍の料金です。

申込締切日9/3(月)、素材は9/12(水)納品です。その前に審査用データを準備願います。ビジュアル審査に2～3日かかります。

※クライアント審査はございます。事前に相談ください。

トレインビジョン車両は4編成です。相鉄線は通常1日、約38編成で運行しておりますので、全体の約10%の割合となります。

現状、7日以上車両点検等の作業は入っておりませんが、事故等により車両が運行しない場合や、一部または全車両で放映できない場合も払い戻しは行いません。

相鉄のトレインビジョンのシステムは、JR、東急等のシステムと異なります。

例えば、納品後急遽素材の変更や差し止めを行う場合、システムの差換えに5～10日程時間がかかります。

また、別途作業費が発生する場合もございますのでご注意ください。

その他、予期せぬ事項が発生した場合は、適宜ご案内をさせていただきます。

# 仕様書 1

## ①表示上の制限

### 1. サンプル領域について

モニター画面は、非常に視野角が広く、椅子に着席した状態でも視認可能です。しかしモニターが、取付パネルよりも奥にとりつけられている為、パネルの陰に隠れる部分が発生します。よって、モニターの表示性能に加えて、これらを考慮したコンテンツの文字配置をご推奨いたします。

図1のように動画コンテンツの表示範囲は、LCDの枠部と取付フレームの寸法公差および、スクイーズ(伸張)して表示する関係上、約9mmずつ余裕が必要となります。

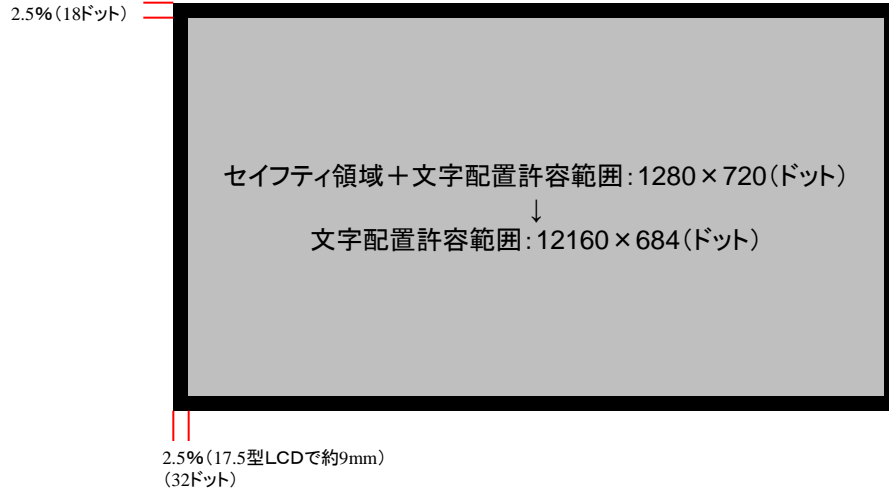


図1 サンプル領域

### 2. スクロール表示について

動画コンテンツ再生時において、スクロール表示(斜め、タテ、ヨコ)があるコンテンツでは、一時的にコンテンツ再生がスムーズに流れないフレームが発生する場合があります。そのため、スクロール表示がないコンテンツの使用を推奨します。

## ②コンテンツの入稿形式

### 1. 動画入稿形式

項目	仕様
入稿メディア	・アナログベータカムテープ <b>BETACAM</b> <b>BETACAM SP</b> <b>BETACAM SX</b> (BETACAM SPを推奨) ・デジタルベータカムテープ <b>Digital BETACAM</b> ・HDカムテープ <b>HDCAM</b>
フォーマット形式	NTSC方式アナログ・デジタルベータカムテープ (720 × 480ピクセル/フレーム) NTSC方式HDカムテープ (1920 × 1080ピクセル/フレーム)
フレームレート	最大29.97フレーム/秒
原稿サイズ	10秒～60秒を推奨、最長120秒 (3フレーム単位で任意に設定可能)
サンプリング領域	ベータカム画像上下左右各2.5%ずつのセーフティ領域が必要 (図1 サンプル領域を参照)
タイムコード	ノンドロップフレーム 00:00:00 00～23:59:59 29の24時間計を使用 本編は、01:00:00 00から記録する
キューシート	本編のイン点とアウト点、クレジットを明記したキューシートが必要 (図2キューシートを参照)
捨てカット	本編の前後に調整用の捨てカットが必要 (図2キューシートを参照)
動画エンコード時の注意事項	表示処理の制約上、アウト点に10フレーム(0.3秒)を加算し、エンコードする必要がある。

### 【備考】

(1) MPEG-2規格は、フォーマットとデコードのみ規定しており、エンコード(圧縮)の方法は規定されていない為、メディア編集システム以外で、MPEG-2ファイル形式にエンコードしたコンテンツの表示は、保障しない。メディア編集システムでは、NTSC方式アナログ・デジタルベータカムテープ、HDカムテープで入稿したもののみを本システムでエンコードします。

#### (注1)

通常、テープにはタイムコードが記録されています。このタイムコードは1秒を1/30に分割してカウントしています。このように秒30フレームで記録されているテープを、ノンドロップ・テープあるいは、フルフレームといいます。

#### (注2)

本編のトータルタイムは3で割り切れるフレーム数であることが前提であり、それ以外の場合、アウト点を最大2フレーム前後にずらす必要があります。後ろにずらした場合に捨てカットが必要となります。

# 仕様書 2

## ③タイムコードについて

ベータカムテープのタイムコード記録方法例として、図2をご参照ください。

- (1) ベータカムテープは、00:00:00 00～23:59:59 29の24時間計を使用。
- (2) 本編の記録場所は、01:00:00 00以降とする。
- (3) 動画エンコード時は、クレジット部分をサムネイルに設定し、本編をエンコードする。  
なお、フレーム単位の調整には捨てカット部分を使用する。

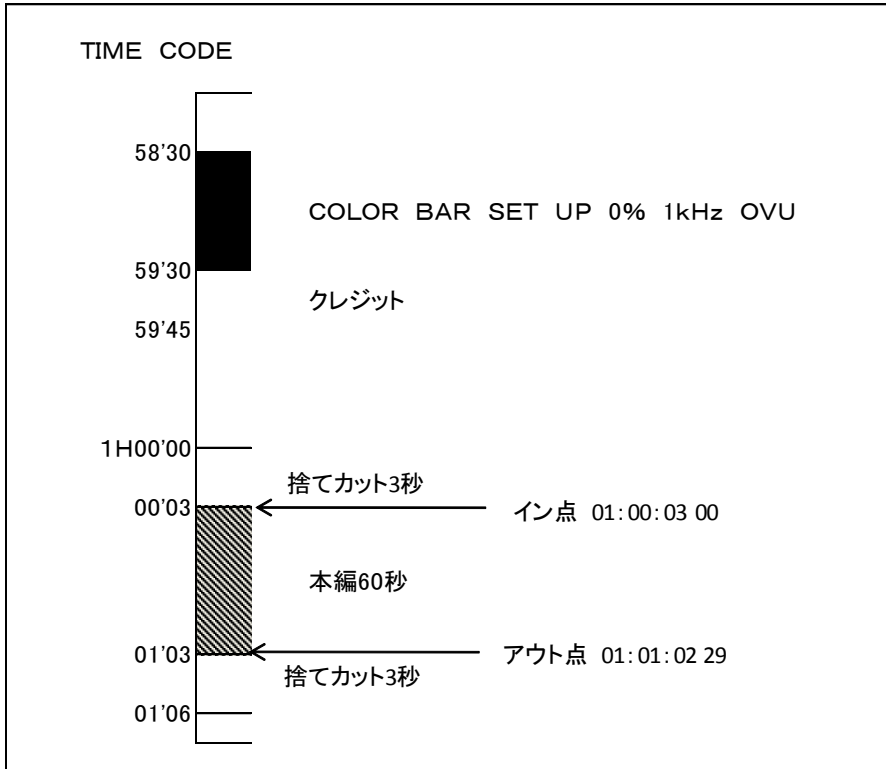


図2 キューシート

## ④静止画入稿形式

項目	仕様
入稿メディア	CD-R DVD-R
ファイル形式	JPEG形式 <sup>(注1)</sup> （プログレッシブJPEG、YCCカラースキームは除く） BMP形式
色数	8ビット（256色）、24ビットフルカラー（16,777,216色） <sup>(注2)</sup>
画像原稿サイズ （解像度）	1280×720ピクセル <sup>(注3)</sup>
ファイルサイズ	JPEGファイル：700KB以下 BMPファイル：2800KB以下 <sup>(注4)</sup>
許可される形式	JPEG：ITG（The inter charge JPEG Group）のライブラリ対応の 通常JPEG形式（プログレッシブJPEGは除く） <sup>(注5)</sup> BMP：Windows形式非圧縮BMP <sup>(注6)</sup>
静止画表示時間	10秒～99秒

（注1）

JPEG：Joint Photographic Experts Group。カラー静止画像の符号化方式の標準化を進めているISOとITU-TSの合同組織。およびこの組織が定めた静止画像の圧縮・伸長方式。画像を8×8ピクセルブロックに分割し、DCT（Discrete Cosine Transform、離散コサイン変換）により周波数分布を求め、高周波成分をカットした後、ハフマン圧縮をかける。非可逆圧縮のため、元の画像を再現することはできない。通常JPEGと呼ばれる画像フォーマットは正式にはJFIF（JPEG File interchange Format）。

（注2）

BMPファイルのうち、8ビット（256色）、24ビットフルカラー（16,777,216色）以外は、メディア編集システムで、読み込み不可とする。

（注3）

静止画像原稿サイズが1280×720ピクセル以外は、メディア編集システムで、読み込み不可とする。

（注4）

静止画1ファイルの容量制限を設け、規定値以外のサイズは、メディア編集システムで読み込み不可とする。

（注5）

プログレッシブJPEG、YCCカラースキームのJPEGは除く。

（注6）

許可されない形式としては、圧縮形式BMP（Windows、OS2共）、OS/2形式BMPがある。